サッカー運動公園建設費用予算賛成討論

提案されている、令和2年度補正予算中、20億円の債務負担で計上されている総合運動公園の工事予算に賛成の討論を行います。

私は藤枝MYFCがJ2に昇格して、藤枝のスタジアムで試合をする事に何ら反対するものでなく、むしろ祈願する立場であります。

あえて討論を行う理由は、賛否だけでは問題点がはっきり示されない事、また自己の意見が充分表明しつくせない事、この問題は、今後大きな藤枝市の問題となりかねない事、などがあります。

単に賛成と言っても、諸手を挙げての大賛成か、問題点を克服した上での条件付き賛成かとでは大きく違います。質疑を通じ今後の進め方について当局が一定の進捗管理をしていく事が明らかになり、MYFCの皆さんが傍聴に来ている状況で問題点がある程度明確になった事を前進と捉え賛成はいたしますが、限りなく反対に近い賛成であるという事をまず表明しておきます。

その理由を述べます。

まず、問題点です。

最大の問題は、コロナ禍で巨額の財政支出を伴う支出に対し、市民合意が得られるかという事です。

この問題は、質疑で解明されたとはとても言えません。当局側が持ち出した答弁は、国の財政支出を求めていく事や、市民アンケートによれば7割の市民がJ2昇格を願っている事などを挙げましたが、これで市民の合意が得られている事には残念ながらなりません。

一方で、多くの藤枝市民はサッカーを愛している、スポンサーの確保や成績向上など、自治体に頼らず一層の努力をMYFCが行えばスタジアム整備の合意も得られる方向に進むはずであるという率直な議論を関係者の前で行えたのは貴重な機会でありました。

防災拠点という考え方も、20億かければ屋根付き観客席は避難者を風雨から守るためとか、大型映像装置は被災地情報を提供するためとか、とってつけたような理由ではなく、より具体化された防災器材の提案が出来るはずですが、その背景にある国の補助金を活用するためと言う事も同じ税金に変わりはないわけですが、谷稲葉インター近くに多くの人を受け入れる避難地はいざというときのため確保しておくことも市民合意があるかどうかを別に考えれば前進には違いありません。

もう一つの問題はアクセスの件です。これも結局、総合的な検討を今後進めていくという事だけに尽きておりまして、その具体像がほとんど明らかになりませんでした。わかったのは、自家用車に頼る事つまり駐車場を増やす事、シャトルバスを増やす事ですが、どう行うのか納得いく答弁は何らありませんでした。

これは市民にとって一番わかりやすい、スタジアム建設に対する反論となって当局にはねかえってくるはずです。それは完成に近づけば近づくほど強力になってくるでしょうから、今のうちにきっちりと市民に示せるアクセス解消策を当局は作成すべきである、大石議員が指摘した焼津の運動公園（西焼津駅のすぐ近く）ではなぜダメなのか、という根拠を持った反論に対しても、なぜ谷稲葉なのかかをきちんと示すことが求められます。MYFCのホームタウンは藤枝だけではないのですから。

更に、20億全てもUR都市再生機構に委託する事によって、業者言いなりの工事になってしまう事、他の多くのJリーグが経営不振に陥っている状況で仮にMYFCが昇格しても債務超過になったときにどう対処するのか。こうした現実的な事も決して小さい問題ではありません。この点も質疑ではまともな答えはありませんでした。この場では指摘にとどめておきます。

一方で、大石議員に対して、URが行う様々な下請け工事に地元業者を使うように市が要請するとしました。使うかどうかは先方次第であり、大手を束ねたJV方式で行うのがこうしたデベロッパーの常ですが、巨額の工事が地元業者の仕事起こしにつながればそれはプラスに作用する事でしょう。

さらに、私の質疑に対して、この債務負担の前提となっている令和6年から試合が出来るようにスタジアム工事を完成しないと、MYFCのJ2ライセンスがはく奪される。つまり昇格条件であるJ3　2位以上の成績をあげていてもスタジアム要件で昇格とならないというJリーグ規定については、市長自らJリーグチェアマンと協議をして、コロナ過において柔軟に対応するよう申し入れをしていること、質疑においてJリーグ側と確認が取れている事との答弁がありました。

つまり、市も何が何でも工事を進めるという立場ではない、またJリーグも一定の理解を持っているという事です。

そうであるならば、令和5年までという期間を限定し、予算単年度議決の原則の例外措置である債務負担行為による本予算の提案は、今の段階で採決する必要があるのか、修正動議による修正権の行使か付帯決議などが今の段階では最もふさわしい議会の態度であると私は思いますが、多勢に無勢（ぶぜい）の話は建設的ではありません。

それよりも、巨額の費用をかけてスタジアムを作る事に対し、最終的に市民の合意が得られるべく、討論を通じて問題点を改めて浮き彫りにすることが建設的な進め方でありますし、かつ、冒頭申し上げた通り、藤枝でMYFCがJ2の試合を行う事自体には反対の立場ではありませんので、今回の賛成討論といたしました。以上で私の討論を終わります。